

令和元年度

親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

感想文集

令和元年(2019年)8月5日～6日



原水爆禁止西宮市協議会
西 宮 市

も く じ

感想文集発行にあたって			………… 1
親子広島バスツアーに同行して	西宮市原爆被害者の会	武居 勝敏	………… 2
親子広島バスツアーに同行して	西宮市原爆被害者の会	大高 敬雄	………… 3
親子広島バスツアーに参加して		浅田 美心	………… 5
親子広島バスツアーに参加して		浅田 寿美	………… 5
親子広島バスツアーに参加して		葦澤 れいら	………… 5
親子広島バスツアーに参加して		葦澤 由佳	………… 6
戦争の悲惨さ、平和の尊さ		池田 芽生	………… 7
親子広島バスツアーに参加して		池田 敦	………… 7
平和		泉 友弥	………… 8
平和な日本		泉 大紀	………… 8
親子広島バスツアーに参加して		泉 まり子	………… 9
親子広島バスツアーに参加して		板垣 虎太郎	…………10
親子広島バスツアーに参加して		板垣 浅美	…………10
親子広島バスツアーへ行って		伊藤 蓮	…………11
ショックを受けた原爆資料館		伊藤 蘭	…………11
平和について考える		伊藤 裕圭	…………12
広島のげんばく		岡本 真希奈	…………13
親子広島ツアーに参加して		岡本 雅彦	…………14
戦争はやらない		奥林 和久	…………15
広島平和バスツアーに参加して		奥林 征一	…………15
親子広島バスツアーに参加して		小野 泰輔	…………15
親子広島バスツアーに参加して		小野 聡太	…………16
親子広島バスツアーに参加して		小野 奈央	…………16

親子広島バスツアーに参加して	小畑 歩己	…………17
親子広島バスツアーに参加して	小畑 江理香	…………17
親子バスツアーに参加して	下村 駿佳	…………18
親子バスツアーに参加して	下村 玲子	…………18
広島で戦争のことを学んで	新正 拓也	…………19
親子広島バスツアーに参加して	萩村 美紀	…………19
広島バスツアーに参加して	諏訪 琉人	…………21
親子広島バスツアーに参加して	諏訪 裕香	…………21
親子広島バスツアー	田中 丈琉	…………22
親子広島バスツアーに参加して	田中 大翔	…………22
平和・非核学習の旅	田中 祐子	…………23
親子広島バスツアーにさんかして	椿野 圭史	…………24
親子広島バスツアーに参加して	椿野 知子	…………24
親子広島バスツアーに参加して	中嶋 琉七	…………25
親子広島バスツアーに参加して	中嶋 絹子	…………25
もうぜったいにしてはいけないこと	浜田 夏帆	…………27
親子広島バスツアーに参加して	浜田 香織	…………27
親子広島バスツアーに参加して	増田 桃花	…………28
親子広島バスツアーに参加して	増田 珠姫	…………28
広島バスツアーに行って	森 美咲	…………29
空から降ってきた悪魔	森 優樹	…………29

感想文集発行にあたって

西宮市長・原水爆禁止西宮市協議会会長

石井登志郎



本市は昭和 58（1983）年 12 月 10 日に「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成 22（2010）年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和 63（1988）年より毎年実施しており、今年で 32 回目を迎えました。

「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列などを通して、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないのでしょうか。

戦後 74 年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんには、この 2 日間で得た経験や思いを多くの方に伝えていただき、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、歩んでいただけることを切に願います。



出発式の様子

親子広島バスツアーに同行して

西宮市原爆被害者の会 武居 勝敏

今年で32回目の親子広島バスツアー。44名20家族の参加。西宮市職員2名、西宮市原爆被害者の会2名が随行しました。

8月5日午前8時半、西宮市役所前で出発式。石井登志郎市長の挨拶がありバスで出発。車内では自己紹介と参加の抱負、DVD鑑賞、被爆体験、被爆クイズなど少し緊張した雰囲気でも少し緊張した雰囲気でも少し緊張した雰囲気で過ごし昼過ぎ平和公園に到着。原爆の子の像、原爆ドーム、島外科病院、被爆アオギリ、4年半ぶりにリニューアル全面オープンした原爆資料館を見学した。資料館は説明を控えめに遺品展示に重点を置き、中でも参加者と同年代の学徒動員で犠牲になった生徒たちの破れた衣服の展示には参加者の多くが心を打たれたようだ。夕刻、宿泊先のホテル到着。

夜は被爆体験記・原爆詩の朗読会があった。国立原爆死没者追悼平和祈念館から派遣された3名の方の朗読を聞き、参加者親子も朗読を行った。どのお話も参加者の心を打ち平和の大切さを感じさせる内容であった。

翌日は、朝食後、バスで平和公園に向かい7時過ぎ到着。途中ボランティアの方から献花用の花をもらい式典会場へ。それぞれが慰霊碑に献花した。あいにくの雨模様。しかし昨年の猛暑よりはるかに楽。8時式典開始、松井広島市長の挨拶に始まり各代表の挨拶、こども平和宣言があり約1時間で式典終了。この式典に参列した意義は大きい。一生忘れることのない経験と記憶になったことでしょう。

式典終了後は自由行動となり約半数の希望者が平和公園内の碑巡りに参加。その後路面電車で移動、福屋百貨店でお土産の調達。「お好み村」で昼食の後、平和公園へ移動。バスに乗り無事西宮市役所前に到着した。

最後に、参加者から暖かい拍手をいただき、何が良かったかの質問に「資料館」との返事がありました。

今も世界では戦争が続いています。戦後74年、日本は戦争をしない国となりましたが、戦争を知らない世代が国民の8割を超えました。戦争や被爆体験も年々風化が進み若い世代では8月15日の終戦の日を17%も知らなかったと言います。

今もなお世界には14,000発もの原子爆弾があります。その一発は広島・長崎型の1,000倍もの破壊力があり人類をはじめ地球生命のすべてを崩壊させる可能性があることを学びました。

このツアーに参加されたみなさん、「これからはあなた方が平和を作る番です。戦争のない平和な世界を築く人になって下さい」と心から念じお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

親子広島バスツアーに同行して

西宮市原爆被害者の会 大高 敬雄

今年は近年になく遅い梅雨明けであった。しかし明けてからは連日の猛暑である。8月5日（月）西宮市主催による恒例の親子バスツアー出発の日、朝から暑い。8時30分、石井西宮市長から激励のご挨拶をいただき、9時予定通り西宮市役所を出発した。途中、竜野西 SA で休憩、福山西 SA で昼食後、14時過ぎに広島平和公園に無事到着した。原爆の子の像に折り鶴を奉納、原爆ドーム等を回り新装なった平和記念資料館を見学した。資料館は学生の頃初めて見学し強烈な衝撃を受けた記憶がある。それ以来の本館入館であった。当時は実物とパネルによる展示であったが、今回、特に展示物の多さと巨大な写真パネルによる効果的な展示は視覚を通して原爆の惨状をよく伝え、あらためて、原爆の悲惨さと愚かさを痛感できました。

宿泊先で行われた被爆体験記朗読会は何度聞いても胸に迫る感動がある。特に「げんしばくだんがおちると、ひるがよるになって、人はおぼけになる」この短い詩には端的に原爆の威力、周りの状況変化、人に与える影響が良く表現されていて毎回感銘を受ける。

8月6日、6時40分ホテルからバスで平和公園に向かう。台風8号が九州に接近している影響で曇り空、雨予報である。追悼式が雨の日だった記憶は私にはない。聞けば10年に一回ぐらいの頻度で雨の式典もあったとのこと。貴重な体験である。

7時前に平和公園近くでバスを降り、歩いて会場へ、途中で献花用の花を受け取って会場に入った。既に多くの方々が集まり騒然としていた。幸いいつも苦勞する献花はすぐに並んで終わることができ、あとは開会を待つばかりである。開会少し前頃に残念ながら予報通り雨が落ちて来た。毎年暑い原爆忌は今回少し体に優しい式典となった。8時より一連の行事が進み各界の代表の挨拶。いろんな制約に縛られたのであろう形式ばかりの挨拶には全く心に響かない。

国連事務総長の代読をされた中満事務次長の話。「世界には14,000発の核兵器があり、今、世界は国際緊張の中にある。いつ核兵器が発射されてもおかしくない」と話されたことにあらためて現在の国際情勢の危うさを認識いたしました。

また、こども代表の平和への誓いは純粋な気持ちを素直に言葉にしており、式典を通じて一番素晴らしいスピーチであったと私は思っております。

9時に式典は終了し、西宮親子バスツアーに参加された方で、自由行動の方々はそれぞれに別れ、一方団体で公園内の碑を巡る方々は被爆したアオギリの木の前に20名ばかりが集合した。雨はますます強く降りだしたが、子供さん等は雨をものともせず、西宮市原爆被害者の会 武居会長の説明で平和公園内の慰霊碑を元気に歩いた。

この後は原爆ドーム前から八丁堀に電車で移動、福屋での買い物、お好み焼き村で昼食をとった。そして12時50分、再度アオギリの木の前に全員集合し帰路に着いた。

今回のツアーで感じた事は原爆の追悼式典は毎年、盛大に開催されています。全国にも大々的に報道されています。しかし一方で多くの国民の意識は年々薄れ原爆の記憶は風化

し続けております。私は「盛大なる式典と薄れゆく記憶・意識」このギャップに違和感を毎回感じ、又、危惧しております。

私たちは広島原爆の記憶を劣化させる事なく語り継ぎ、なおかつ広げていかななくてはと改めて強く思いました。

最後に参加された西宮親子の皆さんはリラックスした雰囲気の中で楽しく学習されたと思っています。そしてそれぞれに学習し感じたことがあったと思います。ぜひ周りの方々へ自分なりの思いをお伝えていただければ嬉しく思います。



原 爆 ド ー ム

親子広島バスツアーに参加して

浅田 美心

わたしは、今回のバスツアーで初めて、広島に行きました。バスツアーに行くまで、原爆は、正直他人ごとだと思ってたけど、資料館などを見て「もし自分のまちに、原爆が落ちたら。」と考えると、他人ごとじゃないなあと思いました。

こんなきちょうな大切な体験をさせていただきありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

浅田 寿美

私は、初めて広島に行きました。

毎年ニュースなどの報道で拝見していた平和記念式典に参加させていただき、さまざまな事を学びました。

原爆の子の像のモデルになった方のお話を聞き一緒に参加した小学校四年生の娘と心を込めて折り鶴を奉納させていただきました。

初日の夜の朗読会では文字にするのものはばかられるほどの細かい事まで詩にされていて胸がつまる想いでした。

何よりも、四月にリニューアルされた平和記念資料館で目にした展示物は、原爆の悲惨さを今に残すために、お名前の方のわかっている方の遺品も数多く展示されていました。私事ですが神戸で受けた阪神淡路大震災が蘇りました。

しかし、被爆された方々は、さまざまな後遺症で今でも苦しんでおられると聞き心にもお体にも深い深い傷を負われていらしゃると知り、まだ私の体験など小さな物であるように思います。

今現在、世界の至る所で紛争、テロなどでたくさんの尊い命が失われています。幸いにも日本国内では、大きな争い事などはありませんが、戦争の悲惨さを学び、今まで以上に、世界の平和を強く祈り、そして被害の恐ろしさ、悲惨さを伝えていかなければいけないと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただきました事に、とても感謝いたします。

ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

葦澤 れいら

わたしは、親子広島バスツアーに参加して、資料館を見たり、朗読会を聞いたりしている時は、少しこわかったりしたけど友達もできて楽しかったです。

原爆くドームを見た時は、原子ばくだんがおちたらこんなにぼろぼろになるんだと思いました。屋根はもうこげてなくなって、がれきがいっぱいおちていて、鉄のぼうも、三千～四千度もあったので曲がっていました。

平和記念資料館には、その時の絵や写真があったからその時の光けいがうかんだりしてしんどくなったり、自分とか家族がそういうめにあつたらと思うとつらくなります。原子ばくだんで亡くなった方の着ていた服やお弁当、日記などもあってひばく者の人や原子ばくだんで亡くなってしまった人の家族の気持ちが少し分かりました。

朗読会は、ひばく者の人たちの体験を読んでもらって、とてもはくりよくがあつてぞくっとしました。でも、ひばく者の人たちの体験がくわしく分かつて本当にその場所にいるみたいでした。

記念式典では、花をおそなえして、代表の六年生や安倍首相の話を聞いてきちょうな体験ができました。

ひめぐりは、たけいさんの説明を聞いたり、そこに行ったりしました。その後おみやげを買って、このバスツアーでできた友達と広島焼とかきを食べて楽しかったです。

記念式典や資料館を見て、朗読会で話を聞いて、他では、できないようなきちょうな体験をできてためにもなったし、友達もできて、楽しかったです。

親子広島バスツアーに参加して

葦澤 由佳

今回娘と二人でこのツアーに参加させて頂き、沢山の衝撃を受けると共に感慨深い貴重な体験をさせて頂きました。

正直、今までは母子共に戦争や広島原爆について向き合うどころか避けてきたような気さえます。やはり怖い体験を見聞きしたり、残酷で悲惨な出来事を目の当たりにするのはとても勇気のいる事だと思います。ですがこのツアーを通して、そのような考えが間違いだったことに気付かされました。

資料館での貴重な遺品にまつわる一人一人のエピソード、被爆者の方々が描かれた惨状の絵、被爆者体験談の鬼気迫る朗読会、慰霊碑めぐりにより様々な状況で被爆された方々の背景を知る事…これらすべて実際現地で見聞きさせて頂くことにより、今までこの惨状を知らず避けてきた事が非常に悔やまれました。74年前に広島で、罪のない人々が一瞬にして命を奪われたこと、14万もの尊い未来が奪われてしまったこと、そしてまたこれにより、いまだに苦しみを抱えて生きておられる方々やご遺族がおられることを知ると、これからの未来の恒久平和を心より願ってやみません。

そして今、私達がこの世に生かされていることを当たり前と思わず、日々大切に感謝して生きようと、娘と強く思いました。

この度はこのような貴重な機会を与えてくださり、大変感謝しております。本当にありがとうございました。

戦争の悲惨さ、平和の尊さ

池田 芽生

私は親子広島バスツアーに参加して、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学びました。

平和記念資料館では、当時の人々が経験した、原爆による苦しみやかなしみを感じさせられました。原爆ドームでは、原爆というものの怖さ、おそろしさを感じられました。地元のボランティアによる被爆体験記朗読会や平和記念式典での参列でも、たくさんの人々が原爆によりかなしんでいることが感じられました。

このバスツアーをきっかけに、今まで以上に戦争や原爆について意識するようになりました。これからの生活でも、今回のような機会を大切に、日々の生活の中でも役立つことがあれば役立てていきたいと思います。

ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

池田 敦

広島へは、今回のバスツアーで訪れたのが最初ではなく、平和記念公園・資料館の見学でも原爆の恐ろしさを再度認識しました。

平和記念式典においても、世界各国から要人が参加し唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶、平和の尊さの発信が出来ればと思います。

ただ、私を含め式典参加者のほとんどが戦争を経験しておらず、伝聞だけの知識しかない事は事実です。近隣諸国がミサイル発射実験を行ったりと、まだまだ世界に対しての発信力が足りないのではないかと感じます。災害含め、被害者しかわからない大変な事が数多くありますし、それを伝える事は大変だと思います。

まして戦争という現在の日本では全く未知な事を、伝承するという行為は大変困難です。

でも広島へ訪問する度に、だれもが幸せにならないという戦争、核開発をしてはならないと伝え続けなければと痛感します。

平和非核都市を宣言している西宮市からも、現状の世界情勢に対し警鐘を鳴らしていただけたらと切に願います。

1泊2日の広島バスツアー、娘と色々話をする機会も多く有意識な時間でした。

ありがとうございました。

平和

泉 友弥

8月6日に原爆が落とされました。
今は病院になっているばく心地に行きました。
ぼくが、広島にその時住んでいたら、熱くて川に飛び込んだのかなとか考えると本当に怖いです。
今の平和がいいです。

平和な日本

泉 大紀

僕は日本に生きています。
小学生の道徳の授業や社会の授業で戦争の歴史や広島や長崎に落とされた原爆について一通り学習したつもりでした。でも、このツアーに参加してこれまでの知識とは比にならないくらいの残酷さや恐ろしさを知ることができました。
僕は、このツアーを機に原爆に関する本を読みました。それはアメリカの8人の高校生が、広島、長崎に落とされた原爆について肯定派と否定派に分かれて討論するというものです。それぞれのメンバーの中には日系アメリカ人、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系というように様々です。原爆肯定派のメンバーがもしも原爆を落とさなかったら戦争が続いてもっとたくさんの命が失っていたと主張していました。僕はこの戦争に対してそのような意見を持っている人もいると言うことを知って、驚いた気持ちと少し残念な気持ちになりました。
そして僕はこのツアーと本を通じて、原子爆弾に対する気持ちが変わったと思います。戦争をして誰が得をするのだろうか、良い気持ちになるのだろうかと思いました。世界の国々の人々をこのような考え方に変えることができれば、世界は平和で豊かなものになっていくと思います。



原爆の子の像への折り鶴奉納

親子広島バスツアーに参加して

泉 まり子

子供たちに原爆を考えるよい機会だと思って、毎年応募してきた旅行でした。念願だったツアーに参加することが出来て、出発まで折り鶴を折って思いを馳せていました。

初めて広島街、川が流れ整備されたきれいな街並みでした。原爆ドームから今は病院が建てられている爆心地へ歩いて行きました。爆心地で空を仰いだ時、この空で原爆が炸裂したことを想像すると、言葉では言い尽くせない恐怖を感じました。原爆資料館に入ると、一瞬にして、日常が廃墟となったことをまざまざと見せつけられ、人々の苦しみを目で見て感じました。

夜の朗読会では、会場の静寂の中、私たちの心に直接訴えかけるような素晴らしい朗読、一緒に朗読していると気持ちが入っていきました。

2日目の平和記念式典、雨が降ってきましたが、このような機会はなかなかないので会場の端で参加させていただきました。黙とうや平和の鐘、放鳩、広島6年生の平和への誓い、安倍総理大臣の挨拶を直接聞いて、見て感じる事が出来たことは、貴重な体験でした。

この2日間で広島に滞在した時間はわずかでしたが、子供たちが2日目に言ったのは、昨日のことが、随分前のことみたいだと言いました。それだけ内容の濃い時間が過ごせたのだと思います。

子供たちのためと思って応募したツアーでしたが、私自身がこんなにも平和に感謝し、今の幸せを感じる事になりました。これからは毎年このツアーのことを思い出し、8月6日は平和を考える特別な日になると思います。そして、このツアーで直接聞いたこと、見たこと、感じたことを語りたいと思います。

このツアーに参加させていただき、感謝申し上げます。

西宮市原爆被害者の会の武居様、広島のおいしいお土産を教えていただいたり、原爆について分かり易くクイズにしてくださったり、羽ばたく鶴やたくさんの貴重なお話、しっかり心に刻んでおります。

お世話になりました西宮市の職員の方々、原爆被害者の会の方々、本当にありがとうございました。



原爆の子の像

親子広島バスツアーに参加して

板垣 虎太郎

去年資料館の本館が工事中のため今回見れて良かったです。
資料館に展示されていた絵はとても残酷で恐ろしいなと思いました。
献花をし、亡くなった方々に黙とうを捧げ、貴重な体験が出来ました。
参加できてとても良かったです。

親子広島バスツアーに参加して

板垣 浅美

普段こういうバスツアーなどに参加させていただく事はほぼ無いのですが、昨年息子が修学旅行で広島を訪れた際に相当衝撃を受けたようで、もう一度行ってみたいと言っていたのをきっかけに今回参加させて頂きました。

私も20年前の中学の修学旅行で訪れた以来だったので、とても楽しみにしておりました。

20年前に原爆ドームや資料館を見学した時は、あまりに非現実的な光景にただただ恐れていて、遠い昔のこと、今の時代に住む私には関係のない事、と映画の中の世界の様に感じていました。

20年経った今、改めて見学し、人間のしてきた過ちの大きさに胸が痛みました。

74年の月日が経ったにもかかわらず、未だ苦しんでいる人々もたくさんいる事実。

そんな方々の叫びが届いているにもかかわらず、作りつづけられる兵器の数々。

本当の平和とは何なのか、人間だからこそ知るべき最終課題だと思います。

息子たちの生きる未来がどうかどうか明るく美しいものであってほしいと願うばかりです。



原爆ドーム

親子広島バスツアーへ行って

伊藤 蓮

ぼくは初めて広島に行きました。広島に原ぼくがおちたということは知っていましたが、そんなにひがいが大きいとは知りませんでした。しかし親子広島バスツアーでそのおそろしさを知りました。

あんな楽しい声などがしていた広島をいっしゅんにしてほろぼした原ぼく。原ぼく資料館ではそのおそろしさがよくわかった。水、水とって亡くなっていった人、目がとびで皮ふはたれさがりガラス片がつきささって亡くなった人たち、放射線で髪がぬけ、血をはきながら亡くなった人々がいました。そんな原ぼくは8月5日で、二万七千三十五日たちました。しかし最後の核実験から百七十三日しかたっていません。この原ぼくが落ちるのは広島と長崎までにしてほしい、あんなおそろしいものがおちてきてほしくないと思っているのは世界共通でしょう。だからぼくはこの世界から原ぼくをなくしてほしいと思いました。

ぼくはこの親子広島バスツアーに参加していろいろな経験をさせていただきました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

ショックを受けた原爆資料館

伊藤 蘭

戦争でいいことはありません。題名の通り、一番ショックを受けたのは、原爆資料館です。原爆資料館には人々が着ていた服や自転車などがぼろぼろになった状態でおかれています。原ぼくを落とされた広島や長崎の人々は何にも罪は無いのに、数十万人の人々は、泣くことなく亡くなってしまいました。もし、原ぼくが落とされなかったら、どんなに嬉しかったことでしょうか。また、新しく学んだことがあります。それは、おちた後の広島です。一番心に残ったのは、差別です。治った後も、放射能がうつるといわれていたことがわかりました。また、放射能を浴びたことによっておこる原爆症、白血病やがんになりやすくなったりします。

夜に行われた、被爆体験記朗読会も心に残りました。その中でも、坂本はつみさんがつくった詩の「げんしばくだん」が心に残りました。最後の文の「人はおぼけになる」がしょうげきのでした。私がこの文で読み取ったのは、顔もわからなくなるほど、顔にやけどをしていたことです。

5、6日で学んだことは、あまりいいことではありません。ですが、決して忘れていいことではありません。また、今は、平和なのでしょうか。これからも、平和とはどういうことだろうと思いつきながら生きていきたいです。

平和について考える

伊藤 裕圭

広島を訪れたのは初めての事です。平和学習等で訪れないままで過ごしてきましたが、やはりいつかは訪れるべき地だと思っていました。

広島に到着し、原爆資料館へ。「原爆の死没者はおよそ14万人」と知ったとき、想像もつかない人数に胸が苦しくなりました。原爆の日の前日でもあり、資料館はとても混雑していました。被害にあった建物の一部や、被害後の街並みに、これほどの破壊力があるのかと衝撃を受けました。資料館は4月にリニューアルされたといいます。数多くの生々しい写真や、焼け焦げた衣服の展示がある中、亡くなった子供たちの遺品の横に書かれている最期の様子とご遺族のお話に胸がいっぱいになりました。また、せっかくその時を生き延びても、その後、放射線による後遺症により亡くなる方もたくさんいたことを聞き、核兵器というのはなんて残酷なのだろうと感じました。

次の日の平和記念式典は、あいにくの雨でした。原爆投下の後に黒い雨が降ったと聞きます。水を求めていた多くの人々に、黒い雨ではなく、この雨が降ってくれていたら、少しでも水を口にできたかもしれないと思いながら、式典に参加していました。

8月6日は当たり前前に平和を祈る日として広島には根付いているのだと、式典に出席してみて気づきました。広島市長が平和宣言のなかで、「立場や主張の違いを乗り越え『寛容』の心を持たなければならない。」と述べていました。最近、不寛容さを堂々と主張する風潮に怖さを感じます。子供たちのためにも、いつも心にとめておきたいと思います。

このような貴重な経験ができ、参加してよかったです。暑い中お世話頂いた原爆被害者の会の方々、市役所の方、ありがとうございました。このツアーがこれからも続くことを願います。



原爆ドーム前での記念撮影

広島のげんぱく

岡本 真希奈

一日目に心に残ったことは、広島平和記念資料館です。東館では、げんぱくドームのもけいがあるげんぱく前とげんぱく後の形がぜんぜんちがいました。げんぱく前のもけいはきれいなドームの形でしたが、げんぱく後のドームは、まわりの形がほとんどなくなってげんしばくだん1コの力がどんなに強いかがわかりました。ほかにもいろいろな写真がありました。目には見えない放しや線でかみのけがぬけてしまっていた子どもの写真があっておそろしいなあと思いました。放しや線で顔や口にぶつぶつができていた人の写真がありました。目には見えないのにすごい力を持っているなあと思いました。

次に、本館では、子どもの服がてんじされていきました。ボロボロでたくさんやぶれていました。なかには、血がついた服がありました。かばんもあちこちによごれがついていました。子どもたちの服がいっしゅんであんなふうになってしまうなんて、おそろしいなあと思いました。

夜のろうどく会で、聞かせてもらった話の中では田中清子さんの、ひばく体験記が、いんしょうてきでした。ひばくした時はわたしと同じ9才ということでした。子どもがげんしばくだんでつらい思いをするせんそうはしたらいけないと思いました。

2日目は、早起きして平和記念式典にさん加しました。げんぱくがとうかされた午前8時15分に全員でもくとうをしました。空が泣いているように雨がふってきました。広島のげんぱくで亡くなった人たちは、苦しかっただろうなあと思いました。本館で見た物を思い出してはなしを聞いていました。

自由行動の時にはお父さんとひばく建物を見学しました。げんぱくを受けた建物が今も残っていたのでびっくりしました。本川小学校にもたくさんの千羽づるがほうのうされてありました。わたしがきのう原ぱくの子の像にほうのうした時に見たのと同じくらいあったのがいんしょう的でした。レストハウスは工事中で見学することができなかつたのでとても残ねんでした。

最後に、わたしが広島ツアーで一番感じたことは、どんなことがあっても絶対に国と国がきずつけあってはいけないということです。どうしたらせんそうのない平和な世界になるのかお父さんやお母さんと話し合いたいと思いました。広島で見たり聞いたりしたことはとてもこわかったけど勉強になって良かったです。

親子広島バスツアーに参加して

岡本 雅彦

この度の広島バスツアーには小学四年生の娘と参加しました。

ツアーの案内が届いてから、娘が時間の空いた時に少しずつ折り鶴を平和への祈りを込めて健気に折っているのを見て、彼女なりに思うところがあるのだなと感じていました。

恥ずかしながら私自身、広島原爆ドームとその周辺は訪れた事がなく、娘共々緊張の面持ちで参加しました。

バスの道中では西宮の戦争体験者のDVDを観て、我が街にも厳しい戦争の時代があったのだと思い、日々の平和な暮らしの有難みを深く感じました。

広島に着き、眼前に起立する原爆ドームを見るにつけ、その静かに語りかける様な佇まいに圧倒され言葉を失ってしまいました。

原爆被害者の会の方の案内のもと「原爆の子の像」に折り鶴を奉納し、原爆で亡くなられた方々に哀悼の祈りを捧げ、娘と共に戦争のない世界への想いを新たにしました。

続いて、平成最後の年にリニューアルされた「広島平和記念資料館」を見学。

「あの日、きこの雲の下で何があったのか」というテーマのもと、様々な展示品の数々を見ているうちに何とも言えない、つらく悲しい気分になりました。人々の営みを一瞬にして奪い去る原爆や核兵器の恐怖をまざまざと見せられ、またしても言葉を失い呆然とならざるをえませんでした。74年前の原爆投下後の広島の人々の苦労・苦難を思うと胸が締めつけられる気持ちになりました。まさに核兵器は「百害あって一利なし」です。資料館には世界中の国の多様な人種の方が来訪されていて、関心の高さがうかがえます。

夜には朗読会に参加し、被爆した子供たちが書いた作文をボランティアの女性が想いを込めるように読み聞かせてくれました。私も、ご指名をいただき、「おとうちゃん」という作文を読みました。不覚にも朗読中、涙がこぼれそうになりグッと堪えて読みました。声に出して読むという大切さを改めて教えていただき、娘にも伝わったのではないかと思います。

翌日には「平和記念式典」に西宮市民代表として参列し「原爆死没者慰霊碑」に献花させていただきました。式典には総理大臣をはじめ多くの方々が参列されており、唯一の被爆国として恒久平和を世界に発信する、意義ある式典であると感じました。

あいにくの天候でしたが、自由行動の頃には雨も止み、娘と共に「旧日本銀行」と「本川小学校」を訪れました。どちらも原爆の被害を今に伝える被爆建物です。74年経っても壁や柱に生々しく残る傷痕に背筋が凍る思いでした。慰霊碑も大切ですが当時のまま現存する被爆建物も大変勉強になると感じました。娘も真剣に見学していたようでした。それと度々集合場所になった「被爆したアオギリ」も力強く芽吹いて成長していて特に印象的でした。

二日間にわたり貴重な体験をさせていただき、原爆被害者の会のお二方をはじめ全ての関係者の方々に感謝申し上げます。

令和元年 八月

戦争はやらない

奥林 和久

広島にいて戦争のおそろしさをしり、多くの人々がくるしんでいるということをしりショックを受けました。

これからは、戦争のおそろしさを後世につたえていこうと思いました。

広島平和バスツアーに参加して

奥林 征一

今回初めて平和バスツアーに参加しました。

今までは、戦争反対で絶対に戦争に使用する兵器・人が人を傷つけたり殺人するための物は何があっても造ってはいけない、有ってもいけないと思っていました。もちろん核兵器なんてとんでもないと。広島原爆ドームを訪れたこともありました。

子供が修学旅行で広島に行く。もう一度親子で一緒に行こうと考えた事がきっかけで子供と一緒に平和バスツアーにあらためて参加して私の反戦反核に対する心の変化が有りました。

もちろん戦争と言うものを取り巻くすべての物を反対する気持ちは同じですが、被爆者・被害に遭った人たちの思いを衝撃的に感じ取りました。被爆国である日本に住んでいる日本人である自分自身が恥ずかしいと思う感情が出てきました。以前より身近に悲惨な苦しい思いをした人たちの事を強いストレスを感じ考えさせられています。

日本という国が恥ずかしく感じてしまうのも困ったものです。安全とは威嚇してかなうものではないと心から思います。威嚇しようとしている現在の状況は被爆国として良いのでしょうか。政治を選択している国民は政治に騙されているトリックに掛かっていると思えます。

このツアーに参加以前は、身近ではなかった事。解っていたと勘違いしている自分を発見しました。自分には何が出来るのか、葛藤する日々が続きました。衝撃的に考える事が有りました。平和とは何か？判らなくなっている自分がいます。

親子広島バスツアーに参加して

小野 泰輔

ぼくは、いろいろなことをまなびました。

もうせんそうは、したらだめだとおもいました。

りゆうは、しんじやった人がかなしむからです。

多くの方がしんでおかあさんやおにいちゃんがなくなったら、かなしいからです。

いちばんたいせつなのは、かぞくだから、せんそうは、したらだめとわかりました。

親子広島バスツアーに参加して

小野 聡太

ぼくは戦争について、ぼくは、戦争は絶対にやっちゃいけないと思いました。

なぜならば、多くの人が犠牲になり、人々を悲しませるからです。そんなことが、絶対に許されることではないので、絶対にしてはいけないと思いました。

そしてつらい思いや、苦しい思いをした人や、海で力つきて死んだ人、そしておぼれ死んだ人などもふくめて、それは絶対に許されることではないと思ったからです。

たくさんの人が、戦死するぐらいなら、戦争なんてせずに、なかよくなれば良いと思ったからです。ぼくは絶対に戦争なんてしません。死んでもごめんです。

自分がやったことが、人々に悲しい思いをさせるからです。だから本当に戦争は絶対にしません。それは苦しい思いを、みんなにさせたくないからです。

親子広島バスツアーに参加して

小野 奈央

約 20 年前、私は父の転勤に伴い広島市内に 2 年住んだことがあり、その際には原爆ドーム、平和記念資料館へも行きました。

当時も今と同じく原爆の恐ろしさ、悲惨さは十分に感じていたと思いますが、今回この親子広島バスツアーに子供と参加させていただいて再来した資料館は当時の私を感じる事ができなかった感情を抱かせてくれました。子を原爆で失う親の気持ち、苦しみながら死んでいく我が子をなすすべもなく半狂乱になって名前を呼び続ける母親、そのような言葉を目にして胸が痛くなりました。

自分が痛い苦しいのはもちろんつらいですが我が子が犠牲になるほど悲しいことはないと思います。今自分が母になり、その立場で当時の被爆者のことを思うと、身が引き裂かれる思いだっただろうと想像に難くありません。この先このような思いをする人を絶対につくってはいけないし、私たちの子供、孫、その先の先の世代までこのような悲惨な経験をすることが決してあってはいけないと心から思いました。

唯一の被爆国である日本がこの悲惨な体験を伝え続け、二度と原子爆弾が使われることのないように発信していく責任があると感じました。

原子爆弾は一瞬にして人や町を破壊するだけでなく、被爆の後遺症に苦しむ多くの人がいることを今回のツアーを通して再確認し、核兵器というものが全世界から廃絶されることを願います。

親子広島バスツアーに参加して

小畑 歩己

ぼくは、広島に初めて行きました。戦争のことはよく知りませんでした。原爆くドームを見て、びっくりしました。平和記念しりょう館には、とてもたくさんの方が来ていました。原子ばくだんのもものすごいばく風で、いっしゅんで建物がこわれてしまう様子や、やけどをした人の写真や服をみて、とてもこわいなと思いました。昔の子どももとてもこわかったと思います。

今の日本は、とても平和でよかったです。でも世界では戦争があるし、原子ばくだんもまだ世界にあるので、なくしてほしいです。戦争も絶対にしてはいけないと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

小畑 江理香

このバスツアーは以前より気になっていたのですが、なかなか機会がなく、今年一番下の息子が小学4年生となったので、初めて応募し、参加させていただきました。

平和記念資料館、原爆ドーム見学、被爆体験記朗読会など、それぞれとても良い経験をさせていただきました。特に2日目、いつもはテレビ中継やニュース、新聞で見るだけだった平和記念式典では、直接献花をして、厳かな雰囲気の中参列できたこと、そして、その後の原爆被害者の会の方々による公園内ガイドツアー等、「8月6日」という日に広島を訪れ、肌で感じることは、とても貴重な経験でした。

私達（親）世代は、祖父母が戦争体験者であり、子供の時に身近な人から体験談を聞く機会が少しでもありました。しかし、私達の両親世代は、すでに多くの方が戦争を直接知らない世代となっていると思います。子供たちは、身近な人から話を聞くことが難しくなります。同行して下さった原爆被害者の会の方が「私たちが最後の世代だ（70代の方）」とおっしゃっていました。そう考えると、このようなツアーを開催して下さること、また、今回参加させていただけたことは、大変有意義でした。

同行して下さった市職員の方々、原爆被害者の会の方々、お世話になりました。



島内科医院(爆心地)

親子バスツアーに参加して

下村 駿佳

原ばく、戦争のおそろしさについてくわしく学び、過去の人たちは、どんなにつらかったのか、苦しかったのか、悲しかったのか、目のあたりにしました。思うと、今の生活がどんなに幸せか改めて分かりました。そして、今の生活の「ふつう」。ふつうではなかった過去の人たちが、すごく悲しい気持ちになりました。つみのない人の命がうばわれ、生活、ざいさん、物がなくなってしまって苦しんでいた方々。今も苦しんでいる方々。

親子バスツアーに参加して、最初は、もう終わったことだから…と書いていたけれど、改めて、平和の大切さを学び、しんげんに考えることができました。わたしも、未来に平和のバトンをつなげ、戦争のこわさ、苦しみ、悲しみをつなげ、もう二度と、戦争がぜったいおきないようにしたいです。

ありがとうございました。

親子バスツアーに参加して

下村 玲子

今回、小学5年生の娘と参加させて頂きました。

戦争、原爆について、現地に行き、資料館での見学、生の声を聞き、それらのむごさ、おそろしさ、悲しみ、怒り、全てにおいて、何一つとして良い事はなく、二度とあってはならない事だと、肌で感じました。

原爆詩の「げんしばくだん」には、心が打たれました。

この3行で全てが想像でき、私にとって忘れられない詩になりました。

一瞬にして奪われた命、七十四年、今でも苦しんでる方々。

平和とは何か、今後色々な話に耳を傾け、私に出来る平和のバトンをつなげていきたいと思いました。

参加にあたり、良い勉強になりました。

ありがとうございました。



広島平和記念資料館

広島で戦争のことを学んで

新正 拓也

ぼくが、親子広島バスツアーに参加して、一番印象に残ったのは、原爆ドームです。なぜなら、たった一つの爆弾で建物が崩壊したからです。人も当たり前のように死んでいく、今では、ありえないことが起きるなんてとてもおどろきました。

平和記念資料館では、原子爆弾のおそろしさ、命の尊さや、人への被害がどれほどおそろしいものなのかということ学びました。

ホテルに着いて夕食後に行われたボランティアによる朗読会では、親が子を亡くした悲しい気持ち、子が親を亡くした悲しい気持ち、戦争を憎む気持ち、それを詩としてまとめている被爆者の言葉が心にささりました。

8月6日に行われた平和記念式典では、これからの平和について学びました。

平和資料館で学んだのは過去のことなのでちがいがあんだなと思いました。

ぼくが広島へバスツアーに行き行って思ったことは、戦争はもう二度としてはいけないということ。戦争をしてもいいことはないということです。ぼくは、この2日間いい経験ができました。

親子広島バスツアーに参加して

萩村 美紀

「75年は草木も生えぬ」と原爆投下直後にはそう言われていたと、朗読ボランティアの方のお話がありました。

それから74年後にわたしが目にした広島は、平和記念公園には沢山の緑、惜しげもなく力一杯に鳴く蝉の声、街には路面電車のレトロな雰囲気と近代的な建物に行き交う人々。原爆ドームがなければこの地に原爆が投下されたことなど夢にも思わないでしょう。

原爆体験記朗読会では3人のボランティアの方が優しくも力強い声で体験記や詩を朗読してくださいました。母親との別れを記した体験記の最後には思い出したくない辛い思いを「戦争がどんなに悲惨なものか、こんな話が信じられない今の子供たちにどうしても知って欲しい、この平和がいつまでも続くことを祈りながら」と締めくくられていました。

子供の詩では「ぼくは げんしばくだん だいきらいだ」とストレートな言葉が胸を突き刺しました。いま読み返してみても涙が止まりません。

リニューアルされた平和記念資料館、初めての平和記念式典でも学ぶことは沢山ありましたが、わたしには朗読会が平和とは何かを最も考えさせられるものでした。

このツアーに息子と参加することでお互いが戦争や平和、それに関わる核兵器や原発などそれぞれに考え意見する機会が増えました。とても意義のある2日間でした。

世界で唯一の被爆国に住まうわたし達。

平和への一歩としてできることは、わたしたちがまず自国の歴史事実をしっかり学びそ

れを後世に正しく伝えていくことです。

今回はとても素晴らしい経験をさせていただきました西宮市と被害者の会へ感謝の気持ちでいっぱいです。

この企画に一人でも多くの市民が参加して平和への思いをより一層強く持てるよう今後も続けていただきたいと思います。

本当にありがとうございました。



地元ボランティアによる被爆体験記朗読会

広島バスツアーに参加して

諏訪 琉人

初日のバスの中で、被害者の会の方が作られた、原爆クイズを配られました。その内容は、今現在で起こってもおかしくない事でした。なぜなら、現在でも核兵器は世界に約1万4千発あり、ある人がボタン1つですぐに発射できる状態にあるので、すぐにでも無くした方が良くと思いました。

原爆が投下されて10年後に白血病で亡くなった、佐々木禎子さんがモデルになっている「原爆の子の像」の所では、たくさんの千羽鶴があったので、これだけの多くの鶴の数だけ、「もう戦争はやめてほしい」と願う人がいるのだと思いました。

平和記念資料館の新しくなった新館での写真では、ひどいやけどの人の写真が多く、半径1から2キロ離れた所でも、こういったやけどで死んでしまった人もいて恐ろしい爆弾なので、1つも無くなって欲しいと思いました。

夕食後の朗読会で一番印象てきなものは「弟」というもので、板の間にはさまってしまった弟の願いをかなえてあげられず、死んでしまった。というものです。戦争は亡くなる人以外にも、生き残った人も辛い思いが残るのだと思いました。

この旅行で感じた事は、戦争は大ぜいの人を巻き込んで、命がなくなっています。人は大切な人を守ろうとする心があるので、その人なりの正確な判断をする事と他人に対しても同じように出来る事が、戦争がなくなる事と思うし、大切な事と感じました。

親子広島バスツアーに参加して

諏訪 裕香

今回のツアーでは小学5年生の子供と参加させて頂きました。

被爆者の方のお話や、現地のボランティアの方の朗読会、そして、献花をして平和式典に参加し、碑巡りをして、改めて子供と二人で話し考える機会が出来きて良かったと思います。そして、当時の広島の様子や経緯を聞くことで、今まで知らなかった事を知る事ができ、普通の旅行では出来ない貴重な体験と経験ができたと心から感じています。

戦後70年以上過ぎてしまった事もあり、直接経験された方の高齢化といった事もありますが、被害者の会の方の、親戚の方のお話などを聴きながら、原爆資料館で見た資料や写真を見る事で、たった一つの原爆が約14万人の人達の命が奪われたのと同時に、それまで営まれていた平穏な生活が一瞬にして崩れ去ってしまったという現実があった事が、現在の広島市内の様子からは想像つかない、言葉に言い表せない風景と悲しみと怒りがあり、これは忘れてはいけない、後に生きていく人が語り継ぐ必要があり、二度と同じような思いをしない為に、自分達ができる事は何か、平和とはどういったものか、と改めて考える事ができた2日間でした。

最後になりますが、同行された、被害者の会の方、西宮市の主催の関係者の方々、広島市の現地のボランティアの方々に感謝致します。

親子広島バスツアー

田中 文琉

今年、僕は原子爆弾のことをくわしく学ぶことができました。それまでは「原爆」といえば、広島や長崎に落とされたということぐらいしか知りませんでした。バスツアーから帰ってきてから知りたいと思ったことがたくさんあって、もう少し被爆者のかたに体験されたことを聞いておけばよかったと後悔しました。

広島平和記念資料館では、被爆直後の街並みを見ていると自分の西宮の街が同じようになってしまうらどうしようと怖くなりました。詩や体験記の朗読会では、声に出して読むことで頭のなかにそのときの様子が浮かんでくるような今まで感じたことのない体験をしました。

原爆の怖さや恐ろしさが、次の世代また次の次の世代にも伝わればいいのになぁと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

田中 大翔

僕は今回の広島バスツアーに初めて参加して、広島に投下された原子爆弾のことや被害などについて、学校で学んだこと以上に深く知ることが出来ました。

僕がこのバスツアーがあることを母から聞いて参加しようと思った理由は二つあります。

一つは広島の前爆のことを学校や独学などである程度は知っていたものの、学校の図書室にはあまり前爆のことに関する資料はなく、また独学といっても町の図書館に行く余裕がなかったため、深く学ぶことは出来なかったからです。もう一つは「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列できると知ったからです。平和祈念式は今までテレビで見たことはありましたが、実際に参列したことがなかったため、とても興味がありました。

このバスツアーに参加してみて、最も印象強かったのは広島原爆資料館の展示です。遺品や前爆によって破壊された建物、その悲惨な光景は僕の心に残りました。

二日目の平和式典参列では、予想以上の人の多さに驚きました。僕は式典での小学六年生による平和への誓いが数多くの式辞の中で一番心に響きました。なぜなら、大人のいろいろな思惑とは無関係で、純粋に「被爆者の魂の叫び」を受け止め、平和への想いを世界につなげようとする決意を感じたからです。

核兵器は人間の不安から生まれたと僕は考えています。だからこそ、紛争の絶えない現代社会において世界の核兵器は増える一方です。そのなかで「唯一の前爆国」である日本から僕たちの世代がどのようにして戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさを発信し、平和であり続けることの大切さを世界に向けて訴えていくのかについて考える機会となりました。

平和・非核学習の旅

田中 祐子

亡き祖父は夏休みのたびに小学生だった私に戦争で体験したことを話してくれていました。当たり前のように平和な日常のなかで聞く祖父の戦争体験は幼かった私にとって、あまりにも非現実的で、まるで創作された物語のように感じられていました。自分自身が子供を持つ親となり、平和な日本であってほしいと願うにつれて、祖父が話してくれていた戦争体験の悲惨さや苦難のひとつひとつが生々しく心の中で思い起こされるようになってきました。

今回、親子広島バスツアーがあることを知り、「もしも行くことがあれば、広島、長崎、沖縄そして知覧へは足を運んでほしい」と話していた祖父の言葉を胸に、中学2年生と小学校4年生の息子たちが「戦争とは何なのか」「74年前に何が起こったのか」を学び、これから自分たちに何ができるのかを考える機会になってほしいと願い参加させていただきました。

広島国際会議場で参列した平和記念式典で私たち親子に、「遠い西宮から今日のこの日に広島へお子さんを連れてきてくれてありがとう。どうか、お子さんたちも広島のことを伝えていってね。」と涙ながらに声をかけてくださった方がいらっしゃいました。

今回のツアーを通じて、悲しみや苦しみを乗り越えながら「平和」を訴え続けて懸命に生きてきた広島の人々の想いを心に刻み、家族みんなで「平和」について学び考え伝えていくことができるようにならなければいけないという思いをさらに強くしました。

2日間の限られた時間のなかで平和記念資料館の見学、被爆体験記朗読会、平和記念式典への参列、公園内の記念碑ガイドなど、家族旅行では得ることのできない経験をさせていただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



地元ボランティアから献花用の花を受け取る参加者

親子広島バスツアーにさんかして

椿野 圭史

ぼくは、広島にいったことは、ありませんでした。六年生にまたいくのでちょっとでもげんばくのことをしっていきたいのでこの広島バスツアーにさんかさせていただきました。

しりょう館へ入ったとき、一番さいしょに見たものは、ぼくはされた町です。ぼくは、どんなににぎやかな町でもげんしばくだんが落ちるとあとかたもなくなってしまうことがわかりました。

次に、ひばくされたビンとかがおいてありました。ビンはぺっちゃんこになっていました。どんな物でも、もえたり、ぺっちゃんこになるんだなと思ってぼくは、ふるえてしまいました。

さいごにリニューアルされたしりょう館へいきました。入ったら人かいっぱいだったけど見ました。写真には、人のほねが山のようにつんであるものもあったり、ひふがやけちぎれた人の写真やほかにも人がかいた絵がいっぱいいてんじされていきました。それがおわって、下にいってみると広島の本が売ってあったので、げんばくのことをいっぱいしれたからどくしょかんそう文にすることにしました。

6年生になったらまたいくので今よりちしきを高めたいです。

親子広島バスツアーに参加して

椿野 知子

私が広島へ行くのは小学校の修学旅行以来二回目でした。その時の記憶はほとんどありませんが、資料館の展示物が只々怖かったという思いだけが残っていました。

大人になり、何か違った感想が得られるかな、と漠然と思いながらツアーに参加させて頂きました。

ツアーで一番印象に残ったのはやはり、平和記念式典への参列です。今まではテレビのニュースで見ているだけで、どこか他人事に感じていたのですが、実際に自分が参列すると全く違う感覚でした。

多くの世界中の人々が早朝から集まり、そして多くのボランティアの方々がおしぼりや献花用のお花を配ってくださる。平和を願い戦争や原子爆弾投下の事を風化させてはいけないと、たくさんの方が想い、活動している現実を実際に自分の目で見る事ができたのは、とても意義のあることだと思いました。

私は西宮出身ですが、西宮市が兵庫県内でいち早く「平和非核都市宣言」をしていて、平和への意識を高める活動を積極的に行っているということを知りました。実際の活動の一つであるこのツアーに参加させて頂き、平和のこと、原爆のことに思いをはせ、本当に貴重な時間を過ごすことができました。

ツアー中の朗読会で、平和とは二つの意味があると聞きました。一つは戦争もなく世の中が穏やかなこと。もう一つは争いや心配事がなく穏やかな様子。争うことの愚かさ、穏やかであることの豊かさを私たち一人一人が僅かでも意識することが平和につながるのではないのでしょうか。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

親子広島バスツアーに参加して

中嶋 琉七

戦争は、たくさんの方が苦しみました。原爆は一度にいっしょんで、たくさんの方がなくなりました。

バスツアーに参加した理由は、原爆や戦争の中にはもちろん自分の知らない事もあるからそこを学びに行こうと思いました。

原爆ドームは爆心地からすごく近いのに74年経った今もまだ、けっこのこっていました。きっと原爆をわすれてはならないと思って保ぞんしてきたんだと思いました。体験記の詩を話してくれた人は、何年後までも覚えていてほしいから話してくれたのかもしれないし、ちがうかもしれないけど、でもぜったい何年後までもずっと覚えていたいと思います。平和記念資料館では、原爆一つでいろんな病気にかかったりしたけど家族がたいへんな時に、助けようとしているのがよくわかりました。

広島市の市長さんが言っていた「一人の人間の力は小さく弱くても、一人一人が平和を望むことで戦争を起こそうとする力を食い止めることができる」と言っていた当時15さいの人の言葉はぜったいその通りだと思います。だから戦争なんてしてはいけないと思います。何かのために戦争をしようなんてぜったい言ってはいけない。私は、戦争、原爆は経験はしていないけどぜったいやってはいけないことを覚えておきたいです。

親子広島バスツアーに参加して

中嶋 絹子

こうして原爆を学ぶ為に広島を訪れるのは今回が初めてでした。原爆の日に広島を訪れる機会を与えて頂いたことで、ツアー出発前には「原爆展」へ行ったり、戦争や原爆に関する本を読んだりし、僅かなりとも知識を持って参加したつもりでした。しかし、平和記念公園に着き、原爆ドームを目の当たりにし、原爆投下後の地獄絵図と化した光景の話を聞くと、いかに自分が無知であったか恥かしくなりました。

原爆は、教科書や書物で知るよりも何十倍も何百倍も悲惨で酷く、その苦しみや悲しみや痛みは、想像すら出来ない程のものなのだと思います。

平和記念資料館は、リニューアルにより、遺品そのもののストーリーが書かれていて、地獄そのものであった原爆の惨事は、現実にあったのだと、更に実感させられるものでした。数々の資料のそれらは、あまりにもリアルで、思わず小学生の娘に「辛かったら見なくて良いよ」と何度も声をかけてしまう程のものでした。

「被爆体験記朗読会」も心打たれ、心に残る経験となりました。どの体験記も、心に突き刺さる様な辛いものばかりでしたが、74年前のあの時、人々がどれほど凄惨な状況にあり、何を思ったのかを知ることができました。原爆投下の年だけでも、広島死者数が十四万人といえますから、私が知ることができた話は、ほんの僅かな人の体験記にすぎないのですが。

平和記念式典での広島市長の平和宣言や、こども代表のお二人が力強く述べた「平和への誓い」を聞き、この平和を願う心が、世界中に広まってくれることを願わずにはいられ

ませんでした。

戦争をしても何も残らない。それ所か全て失ってしまう。どんな事があっても戦争をする理由にはならないし、核兵器の使用は絶対にあってはならないことだと強く思い知らされました。

今も尚、世界には1万4千発以上の原子爆弾が保有されているといえます。

「広島の大惨劇をもう二度とくり返してはならない。私達に出来る事は何なのか、今も残る戦の火種を消す為に何か出来る事は無いだろうか」と考えさせられる2日間でした。

この度は、本当に貴重な体験をさせて頂きました。西宮市役所人権平和推進課の皆さまやガイドして下さった被害者の会の方々。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



原爆死没者慰霊碑への献花



平和記念式典の様子

もうぜったいにしてはいけないこと

浜田 夏帆

8月6日、8時15分、原子ばくだんが、広島に落とされた日。いっしゅんで、町はやけ野原になりました。私は、どれだけつらい事がおきたのかを、知るためにこの親子広島バスツアーにさん加させていただきました。

未知の世界に入ってしまった、やけつくされた広島のしゃしんや、けがをした子どもたちのしゃしんを見て、むねがおしつぶされるような気持ちになりました。それと、平和が一番だなと、思いました。

もう、こんな事は、ぜったいにしてはいけない、こういう事は、世の中からなくしていきたいなと思いました。

戦争がきっかけで、亡くなった人々、おさないころに、小さな命をなくしてしまった子どもたちの事を考えると、悲しくてたまりませんでした。

私はもともと戦争にきょう味があつたけど、もつとも〜ときょう味をもつことがきました。これからも、とり返しのつかない事は、ないようにしたいです。一人でも、だれかの命をすくってあげられるようにしたいです。

私は、この広島バスツアーにさん加できてよかったなあと、思います。このたくさん学んだ事は、一生わすれずにいたいと思います。

親子広島バスツアーに参加して

浜田 香織

今回、私は小学四年生の娘とこのツアーに参加させて頂きました。

小学生になってから、北口図書館へ行っては「火垂るの墓」のDVDを観せてもらったり、親子劇場の「クロがいた夏」を観賞したり絵本を借りたり…。何がキッカケだったのかわかりませんが、娘が戦争について興味を持った事が応募の理由でした。

私が中学生の頃は、夏休み中に登校日があり、全校生徒で戦争に関する映像を見たり、体験者の話を聞いたり、8月6日の原爆の日や8月15日の終戦の日を意識した活動がありました。ですが、残念ながら今ではその様な機会は減りつつある様に感じます。10才の娘より何倍も多く生きてきている私ですが、学ぶ事から遠ざかり、その頃に学んだ戦争についての知識もほとんど記憶しておらず、こうやって時と共に忘れてしまうのか…と感じていたので、参加する事が出来てとても感謝しております。

プライベートではなかなか体験できない様な朗読会や、沢山の知らなかった当時の話などを聞けて、とても内容の濃い2日間を過ごさせて頂きました。そして、8月6日という日を広島で過ごし、平和記念式典に参加した事で改めてとてつもない事が過去に起きたという事、その事を忘れてはいけない、伝え、知る事の大切さを身にしみて感じました。これが西宮で過ごした8月6日だったら、恥ずかしながらこの様に感じる事なく、ニュースで見て終わる日常を過ごしていたでしょう。

終戦から七十四年が経ち、当時を知る方々が年々減って来ており、西宮市原爆被害者の会の会長がこの会の最後の一世代と聞きました。戦争が終わり、平和になって七十四年で

はなく、戦争が起こらず七十四年過ごせたとも。私はこの言葉がとても心に響きました。少しでも早く、被爆された方々が、「平和に過ごせた〇〇年」と思える様な世界になってほしいと強く願います。

親子広島バスツアーに参加して

増田 桃花

私は去年、修学旅行で広島へ行きました。

今回は、2度目の広島だったけれどそれぞれの記念碑のことについてさらにくわしく知ることが出来てよかったです。

日本は、今戦争をしてないから平和だけど世界では、まだまだ戦争をしている国がたくさんあります。今、日本は平和だけど世界で見るとまだ平和とは言えません。1つ1つの国が平和になることで世界が平和だと言えるようになると私は思います。

戦争をしても、ただ犠牲者がでるだけということに1人1人が気づくことが大切です。早くこのことに皆が気付いて、世界が早く平和になってほしいです。

親子広島バスツアーに参加して

増田 珠姫

今回のバスツアーは中一の娘と参加しました。十数年前に一度、広島に旅行に行きましたがガイドさんもおらずしっかりと話を聞く事も出来ませんでした。昨年、娘が修学旅行で広島を学び、帰って来てからもたくさん調べている姿を見てもう一度私も勉強したいと思っていましたので参加することが出来てよかったですと思います。

バスの中の体験記、DVDを見るだけで、心が締めつけられ涙があふれそうでした。又、朗読会では、被爆された方たちの悲しく悲惨な体験を詩にされており短くてもはっきりとその時の壮絶な様子が感じとれました。

今年から平和記念資料館は本館もオープンしていて、より多くの写真を見る事が出来ました。展示品や写真があまりにも悲しく、何故何の罪もない人々が一瞬で命をうばわれなければいけないのか深く考えさせられました。

世界平和と一言で言っても、何も出来ない無力な自分がいます。でも今回参加して心に残るバスツアーになりましたので、友人たちにも参加をすすめ、大人も子供も、一人でも多く原爆の恐ろしさを強く知ってもらいたいと思いました。

最後になりましたが市職員の皆様、原爆被害者の会の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。これから先もずっとこのツアーが続く事を願っています。

広島バスツアーに行って

森 美咲

しょう和 20 年の 8 月 6 日、ご前 8 時 15 分に、原子ばくだんがとうかされました。ずじょう 600m でばくはつして、およそ 6,000 度のあつさでやく 14 万人ほどの命がうばわれました。家族をうしなつた人もたくさんいて、にぎやかな広島町の建物がくずれおち、建物のしたじきになって死んでしまった人もいます。草も木もはえません。そこらへんを見わたすかぎり、たくさんしたいがころげおちていました。生きている人でもたくさんのがをしたり、ぼうやガラスのはへんがささつたままだったりしてました。たくさんのはうしゃせんをあびた人は、むらさき色のような色をしたものが体や顔にできてました。

原子ばくだんは人の命をうばうおそろしい物だと思ひました。これからも平和になるように自分でできることは、自分でやつていきつたいと思ひます。もうせんそうはしたくありません。

空から降つてきた悪魔

森 優樹

1945 年 8 月 6 日 午前 7 時 9 分。1 機の B-29 が広島市上空に飛来しました。

B-29 ストレートフラッシュ、原爆を搭載したエノラゲイではなく気象観測機。

このストレートフラッシュの飛来により広島は運命は決まりました。

原爆投下の候補地は広島・小倉・新潟・長崎とされ、この日はストレートフラッシュとは別に 2 機の B-29 が小倉・長崎上空にも向かつていました。

午前 7 時 25 分、エノラゲイはストレートフラッシュにより暗号受信。

「広島 天気良好。第一目標に勧める。」

この時、原爆投下は広島に決定しました。

しかし、広島の人々は知りませんでした。このあと、空から恐ろしい悪魔が降つて来る事を…

この度、「親子広島バスツアー」に参加させていただけた事、大変誇りに思うと同時に企画していただいた西宮市に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

小学 4 年の娘と共に参加させていただきました。

私自身、結婚後この 13 年の間で広島には今回で 4 度目の訪問になります。全て戦争関係での訪問です。

娘も 3 年前に 1 度訪問しているのですが、私が教えた事以上の内容を学んでもらえたらと思ひ参加いたしました。

終戦から 74 年がたち、あと 10 年もすれば当時の事を語れる人はほとんどいなくなつてしまひます。

いかに後世にこの事実を語り継いでいくか。この失敗を二度と繰り返さないよう私も含め、子供たち、そして孫たちへ語り継いでいかなければいけません。

昔の日本、戦争で多くの方が犠牲になり、原因は軍国主義全盛で傲慢になりすぎた国家

体制にあった事を。

娘にはまだ難しい内容かもしれませんが、自分から戦争・原爆に興味を持ちこのツアーに参加した事は大変大切な事だと思います。

行きのバスでは当時の体験談を聞き、広島到着後は産業奨励館（原爆ドーム）・平和記念公園・資料館を訪問しました。

何度訪問しても当時の日本で壮絶な出来事があった事実を改めて実感いたします。

平和記念式典。平和を願う各国代表・内閣総理大臣をはじめ各政治家の方たちと共に参列できた事を大変誇りに思います。

今回のツアーで実感した事ですが、少しの言葉を聞いただけでも戦争・原爆の恐ろしさが伝わると思いました。

夜の朗読会の詩で

「げんしばくだんがおちると

ひるがよるになって

人はおぼけになる」

小学3年生の詩ですが、この短い詩だけでも受け取る側には大きく伝わりました。（私自身はこの朗読会では「無題（よしこちゃんの詩）」を読みましたが）

いつも通りの1日の始まり。仕事へ行く人・学校へ行く人・学徒動員・さまざまな方たちの生活が始まろうとしている時、1発。たった1発の爆弾で一瞬にして全てが失われました。核分裂し炸裂した瞬間の爆弾内部の温度は 250 万℃ともいわれ、爆心地の温度は 6,000℃・直径 310mの火球が現れ熱線と大量のガンマ線を放出、その後は数十万気圧の爆風で吹き飛ばされて街は壊滅しました。

「空から降ってきた悪魔」

私はそうとしか思えません。

国の都合で罪のない一般市民が犠牲になる。

このようなことがあっていいのでしょうか？

当時、日本には日本の、アメリカにはアメリカの都合があったとは思いますが。

どんな最もな理由があっても...人の上にあのような物を落としてはいけません。

唯一の被爆国として、全世界にこの事実を未来永劫語り継ぎ、二度と核兵器が使われない事は勿論ですが、戦争が行われない事を願います。

先の大戦で亡くなった全ての国の方々のご冥福を心よりお祈り致します。

最後になりましたが、西宮市原爆被害者の会の方々・西宮市職員の方々・ツアーに参加された皆様、暑い中本当にお疲れ様でした。

共に参加できた事を心より感謝いたします。

世界が、平和でありますように...

令和元年度 親子広島バスツアー行程表

8月5日(月)		8月6日(火)	
8:30	西宮市役所前の「平和非核都市宣言碑」の前で出発式	5:50	朝食
9:00	出発(バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓	6:40	出発(バス)
14:30	広島到着 折り鶴奉納 平和記念公園 平和記念資料館 など見学	7:00	平和記念公園に到着
17:00	平和記念資料館 出発	8:00	平和記念式典
17:30	宿舎(広島ダイヤモンドホテルに到着)	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に平和記念公園内の碑の説明等をしていただきました(希望者のみ)】
18:00	夕食	13:00	集合・出発(バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓
19:15	地元ボランティアによる出前朗読会 原爆被害の概要(ビデオ上映)、被爆体験記・原爆詩の朗読 など	18:30	西宮市役所前に到着
20:30	終了		

平和非核都市マーク



平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年 (1984 年)4 月に一般公募し、7 月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、
わたくしたち西宮市民のみならず、
平和を愛するすべての人の願いです。
そんな平和への願いとはうらはらに、
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの
核兵器を蓄積しました。
核戦争に未来はありません。
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、
持つてもいけないし、持ち込ませてもなりません。
わたくしたちは、
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるときともに、
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、
平和非核都市をここに宣言します。

昭和五十八年（一九八三年）十二月十日

西宮市